

## 平成27年3月の大阪森林便り

### 古都の看板 地元の木材で 京都市、材料費9割補助



京都市は、2015年度から事の町並みに合わせて屋外に掲げる広告物を、市内産の木材でつくる店舗などに、材料費の9割（上限10万円）を補助する制度を新設すると発表しました。2015年度予算案に関連費用300万円を盛り込みました。

年間で30件程度の利用を見込みます。同市は市域の約75%を森林が占めています。

(2015年2月6日 日本経済新聞記事から抜粋)

### 集成材の原料板 対日価格が下落 — 1～3月積み、4期連続



集成材の原料板の対日価格が4四半期連続で下落しました。欧州産の1～3月積み価格は、柱用が10～12月期と比べ1%や安くなっています。

(2015年2月7日 日本経済新聞記事から抜粋)

### 北米丸太 半年ぶり下落 — 2月積み対日価格



北米丸太の対日価格が半年ぶりに下落しました。2月積み価格は前月比1%安くなっています。対日価格は8月と比べ9%上昇していました。

(2015年2月24日 日本経済新聞記事から抜粋)

### 国産合板価格 3か月ぶり下落 — 前月比3%安



国産合板の取引価格が3か月ぶりに下落しました。針葉樹の構造用合板は、前月比3%安くなっています。1年11か月ぶりの低水準です。

1月末の国内工場の在庫は、前月比3%減。前月比で2か月連続で減少しました。

(2015年2月26日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 木材産業シンポジウム



- ☆ 木材自給率は、2002年には過去最低の18.2%を記録。2008年：24%、2013年：29%
  - ☆ 林業従事者は5万人。GNPの0.07%しか占めない産業。
  - ☆ 最近の積極的な木材利用促進策は、地球温暖化対策によって牽引。
  - ☆ 省エネルギー効果：木材は多材料と比較して、部材加工、建設に伴うCO2排出量が少ない。
  - ☆ 炭素貯蔵効果：木材製品は使用中、体炭素を貯蔵することによって、CO2削減に貢献。
  - ☆ CO2は現在も増加。木材の重量の半分は炭素。温暖化問題への対策としては、原因である気体の炭素を減らすことと、個体の炭素を増加させることが必要。個体の炭素増加は、建築物に木材を使用することが効果的。
  - ☆ 国産材を使わない、植林もしない状態が30年間継続されると、建築用材として適切な樹齢は再び乏しい状態。
  - ☆ これからは“植えるために伐る”時代。
  - ☆ 全国で40万ヘクタールある耕作放棄地を森林に戻すことも、森林資源増につながる。
  - ☆ 新耐震基準で建てられた住宅でも、約85%の住宅の耐震性に問題あり。
  - ☆ 一園一室木質化運動を、平成28年度から大阪府で予算どりをして取り組む。
  - ☆ 日本では、森林認証の面積が160万ヘクタールしかない。
  - ☆ ヨーロッパでは、認証材でないと建築には使用できない。
  - ☆ JAS認証を携っていない製材所が多い。
  - ☆ 木は人に優しい
- 調湿作用：周りの湿度に応じて、湿気を吸ったり吐いたりする。
- リラックス効果：木の香りには、リフレッシュ効果、鎮静効果、抗菌作用、殺ダニ作用、消臭作用がある。
- 断熱効果：熱伝導率が低く、熱を伝えにくい。
- 衝撃吸収作用：木材は細い管が並んでいる構造で、クッションのような役割を果たす。

(2015年2月6日 大阪商工会議所 木材産業シンポジウムから抜粋)





## 今月の木の話

### 正倉院の校倉壁は本当に湿度調整をしているのか

正倉院の宝物の保存状態が良かったのは、木材の湿度調整作用が校倉内部に働いていたからです。木材は、周囲の大気の湿度が上がれば水蒸気を吸収し、湿度が下がれば放湿するという素晴らしい特性を持っています。このため、木材に囲まれた空間では、湿度の変動が外部よりも小さくなります。

木材が周囲に張り巡らされた倉の中で、湿度調整現象が千年以上も繰り返され、それが保存に対して有効に働きました。

また、宝物が「杉の唐櫃」の中に入れてあったため、いわば二重の湿度調整機能が働いて、湿度の変動をさらに減少させていたこと、さらに、校倉自体が高床式であるため、地面からの水蒸気が遮断されていたことも、保存に有利に働いた要因です。

宝物の保存状態が良かったのは、校倉の壁が開閉していたからではなく、木材に囲まれた状態に宝物が置かれていたからです。

(日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋)

